

《生活文》 パパとあでか

アクトン 小一

きょうはパパとシルウッドへいきました。そして、バッタをつかまえて、かんきつしました。バッタはみんな、はねをせなかくかくしもっています。でもジャンプのほうがとくいです。オレンジのロリポップもたべて、たのしかったです。



【評】パパと一緒に出かけをして、楽しそうですね。バッタのことをしっかり観察できました。

《感想文》 「黒ま女さんが通る」

アクトン 小六

私がこの本を読もうと思ったのは、ま女とか魔法に興味があるからです。

この話は黒鳥千代子A・K・Aチョコとよばれている六年一組の女の子の話です。チョコは、毎日五時に起きて魔法の朝練をします。学校から帰ってきてても夜練をいつもしています。この練習とは、問題集をたくさんとつづの女の子として住めるからです。チョコはずうずうしい兄みたいなインストラクターから教えられるのがいやだけれどがまんしているのです。また、けいたいがあったら分らないことを調べられるのに、それはお母さんがまだ小さすぎるといって持たせてくれません。だからチョコは、早く三級黒ま女になってこの人生から出したいのです。

この話は、いろいろ私とにていることが多く書いて

あります。例えば、私はチョコみたいにまだけいたいを持っていません。だから、チョコのもどかしい気持ちがよく分かります。またチョコは二人なかのいい友達がいいます。まいちゃんと呼りちゃんです。この二人の友達が、私の友達によくにっています。あまりにも私の友達とやっていることがにているので、本を読んでいる時に笑いだしてしまいました。私の学校は、魔法の学校ではないけれど、学校にある物もよくにっています。

私はファンタジーの魔法の世界では生きていません。でももし生きていたら、魔法を使って飛んでみたいです。なぜなら、空から町の景色を見たり、ちがう国に行ったりしたいからです。これは現実の世界では、絶対に起こらないことです。

この本を読んだことで、夢の中、空想の世界に入りこむことができました。絶対に起こらないことを想像したことで、頭の中がすっきりして体がかかるくなりました。なぜだか不思議な気持ちになりました。

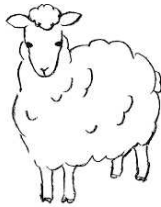
【評】「なぜだか不思議な気持ち」になれるこの本、しかも普通の学校や友達みたいに描かれていて、とても興味深く読めそうです。

《日記》 また行きたいウィンダム

アクトン 小二

広く、どこまでもつづく湖。草げんでは、羊たちがのんびり食じをしています。今わたしは、ウィンダムアにきています。

りよこう一日目は、オレスト・ヘッドへ行き、ハイキングをしました。雨がふったばかりだったので、小川がななめになった石の上、ながれていました。



ちよう上へつくと、羊のなき声が聞こえました。だいはなれたところにいるのに、なぜこんな大きく聞こえるのだろうか、ふしぎに思いました。

二日目は、ピートルクス・ポターのはくぶつかんへ行きました。ピートルビットの本が、いつしゅっぱんされたのはじめて知り、おどろきました。なんと、百年前からあったそうです。

ホテルのいわでは、のうさぎまで見ることができ、うれしかったです。今回のりよ行でわたしは、ピートルビットのことがますます好きになりました。またらい年も、この町をおとずれたいです。

【評】長い間ピートルビットは人々に愛されてきたのです。すてきな湖水地方を旅行して、七海さんはますますピートルビットの世界を身近に感じたことでしょう。

《観察記録文》 図書いいんさんのくふう

クロイドン 小三

【調べた理由】いつも本をたくさんかりる図書室のくふうについて調べてみました。

【調べ方】図書室に行って調べました。それに、先生のお話を聞きました。

【調べて分かったこと】

①図書室の本は色のシールで分るいしてあります。だから自分に合った本が見つけやすいです。

②大きな絵本は、下にならべます。小さい子どもも見やすいからです。

③おすすめ本をインスタグラムでしようかいしています。いつでも、どこでも読みたい本を見つけられます。

【まとめ】図書いいんさんが、ほ習校の子どもたちのために、いろいろなくふうをしてくださっていることが分かりました。

【評】図書委員さんは、補習校の子どもたちが一冊でも多くの本を読めるよう、たくさん工夫をしてくださっていることが分かりました。

